

科目名 (英)	総合演習Ⅳ General ExerciseⅣ	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	
学科・コース	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	120 4	開講区分	後期
【授業の学習内容】							
<p>①総合演習Ⅳではこれまでに学習した国家試験に出題される主要科目について整理し、基礎医学系科目と臨床医学系科目とのつながりを深める。</p> <p>②総合演習Ⅳでは各科目の進行状況に合わせ、国家試験主要科目について再学習する。</p> <p>③様々な過去問を利用し、各科目の苦手項目を把握し苦手範囲を再学習する。</p>							
【到達目標】							
<p>①国家試験の主要科目と出題傾向を理解する。</p> <p>②学習プランを逆算して作成できる。</p> <p>③自身の苦手な科目、項目を理解する。</p> <p>④プランに従って学習し、模擬試験において各科目60%以上の得点率を達成する。</p>							

授業計画・内容	
1回目	はりきゅう理論《鍼の基礎知識・きゅうの基礎知識》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
2回目	はりきゅう理論《刺鍼の方式と術式・灸術の種類・特殊鍼法》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
3回目	はりきゅう理論《鍼の基礎知識・きゅうの基礎知識、刺鍼の方式と術式・灸術の種類・特殊鍼法》到達度確認
4回目	はりきゅう理論《鍼灸の臨床的応用・リスク管理》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
5回目	はりきゅう理論《鍼灸治効の基礎》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
6回目	はりきゅう理論《鍼灸療法の一般治効理論》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
7回目	はりきゅう理論《鍼灸の臨床的応用・リスク管理》到達度確認 弱点を把握し、再学習を行うことができる。
8回目	はりきゅう理論《鍼灸治効の基礎、鍼灸療法の一般治効理論》到達度確認 弱点を把握し、再学習を行うことができる。
9回目	はりきゅう理論《関連学説》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
10回目	はりきゅう理論《関連学説》到達度確認、はりきゅう理論から考える生理学 弱点を把握し、再学習を行うことができる。
11回目	東洋医学臨床論《診断と治療、診察と記録、施術の基礎》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
12回目	東洋医学臨床論《症候に対する東西両医学からのアプローチ①》(全身の症候・皮膚、外表の症候、感覚器の症候) 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
13回目	東洋医学臨床論《症候に対する東西両医学からのアプローチ②》(呼吸・循環器の症候、消化器の症候) 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
14回目	東洋医学臨床論《症候に対する東西両医学からのアプローチ①・②》到達度確認 弱点を把握し、再学習を行うことができる。
15回目	東洋医学臨床論《症候に対する東西両医学からのアプローチ①・②》から考える解剖学、生理学、臨床医学各論、東洋医学概論、経穴学 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
準備学習 時間外学習	授業では過去問を利用して自身の知識確認を行うため、事前学習は必須である。事前学習は授業計画に従い行うこと。 国家試験該当科目は科目数が多いこと、出題範囲も広いことからしっかり事前学習を行い授業内での課題により苦手、知識不足を把握し速やかに補うこと。 月1実施される模擬試験にて学習した範囲においては誤答がないようしっかり学習すること。 模擬試験にて誤答した場合、その項目をしっかりと再学習すること。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書 医歯薬出版 解剖学第2版、生理学第3版、病理学概論第2版、臨床医学総論第2版、臨床医学各論第2版、 医道の日本社 経絡経穴概論第2版、はりきゅう理論 文光堂 鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ 公益財団法人東洋療法研修試験財団 はり師きゅう師国家試験出題基準 平成26年版	

科目名 (英)	総合演習Ⅳ	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	
	General ExerciseⅣ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	120 4	開講区分 曜日・時限	
学科・コース	鍼灸科						後期
<b>【授業の学習内容】</b> ①総合演習Ⅳではこれまでに学習した国家試験に出題される主要科目について整理し、基礎医学系科目と臨床医学系科目とのつながりを深める。 ②総合演習Ⅳでは各科目の進行状況に合わせ、国家試験主要科目について再学習する。 ③様々な過去問を利用し、各科目の苦手項目を把握し苦手範囲を再学習する。							
<b>【到達目標】</b> ①国家試験の主要科目と出題傾向を理解する。 ②学習プランを逆算して作成できる。 ③自身の苦手な科目、項目を理解する。 ④プランに従って学習し、模擬試験において各科目60%以上の得点率を達成する。							
<b>授業計画・内容</b>							
16回目	東洋医学臨床論《症候に対する東西両医学からのアプローチ③》(血液、造血器の症候・腎・泌尿器の症候) 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。						
17回目	東洋医学臨床論《症候に対する東西両医学からのアプローチ④》(生殖器の症候、心理・精神機能の症候) 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。						
18回目	東洋医学臨床論《症候に対する東西両医学からのアプローチ③・④》到達度確認 弱点を把握し、再学習を行うことができる。						
19回目	東洋医学臨床論《症候に対する東西両医学からのアプローチ③・④》から考える解剖学、生理学、臨床医学各論、東洋医学概論、経絡 経穴学 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。						
20回目	東洋医学臨床論《症候に対する東西両医学からのアプローチ⑤》(神経、運動器の症候、その他の症候) 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。						
21回目	東洋医学臨床論《疾患に対する東西両医学からのアプローチ⑥》(神経・筋疾患) 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。						
22回目	東洋医学臨床論《症候に対する東西両医学からのアプローチ⑤・⑥》到達度確認 弱点を把握し、再学習を行うことができる。						
23回目	東洋医学臨床論《症候に対する東西両医学からのアプローチ⑤・⑥》から考える解剖学、生理学、臨床医学各論、東洋医学概論、経絡 経穴学 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。						
24回目	東洋医学臨床論《疾患に対する東西両医学からのアプローチ①》(呼吸器疾患、循環器疾患、婦人科疾患) 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。						
25回目	東洋医学臨床論《疾患に対する東西両医学からのアプローチ②》(消化器疾患、腎・泌尿器疾患、小児疾患) 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。						
26回目	東洋医学臨床論《疾患に対する東西両医学からのアプローチ①・②》到達度確認 弱点を把握し、再学習を行うことができる。						
27回目	東洋医学臨床論《疾患に対する東西両医学からのアプローチ①・②》から考える解剖学、生理学、臨床医学各論、東洋医学概論、経絡 経穴学 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。						
28回目	東洋医学臨床論《疾患に対する東西両医学からのアプローチ③》(自己免疫疾患) 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。						
29回目	東洋医学臨床論《疾患に対する東西両医学からのアプローチ③》(代謝・内分泌疾患、婦人科疾患) 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。						
30回目	東洋医学臨床論《疾患に対する東西両医学からのアプローチ④》(運動器疾患) 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。						
準備学習 時間外学 習	授業では過去問を利用して自身の知識確認を行うため、事前学習は必須である。事前学習は授業計画に従い行うこと。 国家試験該当科目は科目数が多いこと、出題範囲も広いためしっかり事前学習を行い授業内での課題により苦手、知識不足を把握し 速やかに補うこと。 月1実施される模擬試験にて学習した範囲においては誤答がないようしっかり学習すること。 模擬試験にて誤答した場合、その項目をしっかりと再学習すること。						
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。						
受講生へ のメッセ ージ							
<b>【使用教科書・教材・参考書】</b> 教科書 医歯薬出版 解剖学第2版、生理学第3版、病理学概論第2版、臨床医学総論第2版、臨床医学各論第2版、 医道の日本社 経絡経穴概論第2版、はりきゆう理論 文光堂 鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ 公益財団法人東洋療法研修試験財団 はり師きゆう師国家試験出題基準 平成26年版							

科目名 (英)	総合演習Ⅳ	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	
	General ExerciseⅣ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	120 4	開講区分	後期
学科・コース	鍼灸科					曜日・時限	

【授業の学習内容】

- ①総合演習Ⅳではこれまでに学習した国家試験に出題される主要科目について整理し、基礎医学系科目と臨床医学系科目とのつながりを深める。
- ②総合演習Ⅳでは各科目の進行状況に合わせ、国家試験主要科目について再学習する。
- ③様々な過去問を利用し、各科目の苦手項目を把握し苦手範囲を再学習する。

【到達目標】

- ①国家試験の主要科目と出題傾向を理解する。
- ②学習プランを逆算して作成できる。
- ③自身の苦手な科目、項目を理解する。
- ④プランに従って学習し、模擬試験において各科目60%以上の得点率を達成する。

授業計画・内容	
31回目	東洋医学臨床論《疾患に対する東西両医学からのアプローチ③・④》到達度確認 弱点を把握し、再学習を行うことができる。
32回目	東洋医学臨床論《疾患に対する東西両医学からのアプローチ③・④》から考える解剖学、生理学、臨床医学各論、東洋医学概論、経絡経穴学 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
33回目	東洋医学臨床論《疾患に対する東西両医学からのアプローチ⑤》(皮膚疾患、耳鼻咽喉疾患、口腔・歯の疾患、眼科疾患) 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
34回目	東洋医学臨床論《疾患に対する東西両医学からのアプローチ⑤》到達度確認 弱点を把握し、再学習を行うことができる。
35回目	東洋医学臨床論《疾患に対する東西両医学からのアプローチ⑤》から考える解剖学、生理学、臨床医学各論、東洋医学概論、経絡経穴学 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
36回目	東洋医学臨床論《高齢者に対する鍼灸施術》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
37回目	東洋医学臨床論《スポーツ領域における鍼灸施術》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
38回目	東洋医学臨床論《産業衛生における鍼灸施術》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
39回目	東洋医学臨床論《高齢者に対する鍼灸施術、産業衛生における鍼灸施術》到達度確認 弱点を把握し、再学習を行うことができる。
40回目	東洋医学臨床論《スポーツ領域における鍼灸施術》到達度確認 弱点を把握し、再学習を行うことができる。
41回目	東洋医学臨床論《高齢者・スポーツ領域における鍼灸施術》から考える解剖学、生理学、臨床医学各論、東洋医学概論、経絡経穴学 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
42回目	病理学概論《病理学の基礎》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
43回目	病理学概論《病因》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
44回目	病理学概論《細胞傷害と修復》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
45回目	病理学概論《病理学の基礎、病因、細胞傷害と修復》到達度確認 弱点を把握し、再学習を行うことができる。
準備学習 時間外学習	授業では過去問を利用して自身の知識確認を行うため、事前学習は必須である。事前学習は授業計画に従い行うこと。 国家試験該当科目は科目数が多いこと、出題範囲も広いためしっかり事前学習を行い授業内での課題により苦手、知識不足を把握し速やかに補うこと。 月1実施される模擬試験にて学習した範囲においては誤答がないようしっかり学習すること。 模擬試験にて誤答した場合、その項目をしっかりと再学習すること。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】 教科書 医歯薬出版 解剖学第2版、生理学第3版、病理学概論第2版、臨床医学総論第2版、臨床医学各論第2版、 医道の日本社 経絡経穴概論第2版、はりきゆう理論 文光堂 鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ 公益財団法人東洋療法研修試験財団 はり師きゆう師国家試験出題基準 平成26年版	

科目名 (英)	総合演習Ⅳ	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	
	General ExerciseⅣ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	120 4	開講区分	後期
学科・コース	鍼灸科					曜日・時限	
【授業の学習内容】							
<p>①総合演習Ⅳではこれまでに学習した国家試験に出題される主要科目について整理し、基礎医学系科目と臨床医学系科目とのつながりを深める。</p> <p>②総合演習Ⅳでは各科目の進行状況に合わせ、国家試験主要科目について再学習する。</p> <p>③様々な過去問を利用し、各科目の苦手項目を把握し苦手範囲を再学習する。</p>							
【到達目標】							
<p>①国家試験の主要科目と出題傾向を理解する。</p> <p>②学習プランを逆算して作成できる。</p> <p>③自身の苦手な科目、項目を理解する。</p> <p>④プランに従って学習し、模擬試験において各科目60%以上の得点率を達成する。</p>							

授業計画・内容	
46回目	病理学概論《循環障害》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
47回目	病理学概論《炎症》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
48回目	病理学概論《循環障害、炎症》到達度確認 弱点を把握し、再学習を行うことができる。
49回目	病理学概論《免疫異常・腫瘍》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
50回目	病理学概論《免疫異常・腫瘍》到達度確認 弱点を把握し、再学習を行うことができる。
51回目	リハビリテーション医学《リハビリテーションの概要、医学的リハビリテーションの概要、障害の評価、リハビリテーション治療》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
52回目	リハビリテーション医学《リハビリテーションの概要、医学的リハビリテーションの概要、障害の評価、リハビリテーション治療》到達度確認 弱点を把握し、再学習を行うことができる。
53回目	リハビリテーション医学《運動学》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
54回目	リハビリテーション医学《運動学》到達度確認 弱点を把握し、再学習を行うことができる。
55回目	リハビリテーション医学《脳卒中・脊髄損傷のリハビリテーション》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
56回目	リハビリテーション医学《脳卒中・脊髄損傷のリハビリテーション》到達度確認 弱点を把握し、再学習を行うことができる。
57回目	リハビリテーション医学《切断・小児のリハビリテーション》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
58回目	リハビリテーション医学《呼吸器・循環器疾患のリハビリテーション》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
59回目	リハビリテーション医学《運動器疾患・神経疾患のリハビリテーション》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
60回目	リハビリテーション医学《運動器疾患・神経疾患のリハビリテーション》到達度確認 弱点を把握し、再学習を行うことができる。
準備学習 時間外学 習	授業では過去問を利用して自身の知識確認を行うため、事前学習は必須である。事前学習は授業計画に従い行うこと。 国家試験該当科目は科目数が多いこと、出題範囲も広いためしっかり事前学習を行い授業内での課題により苦手、知識不足を把握し速やかに補うこと。 月1実施される模擬試験にて学習した範囲においては誤答がないようしっかり学習すること。 模擬試験にて誤答した場合、その項目をしっかりと再学習すること。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生へ のメッセ ージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書 医歯薬出版 解剖学第2版、生理学第3版、病理学概論第2版、臨床医学総論第2版、臨床医学各論第2版、 医道の日本社 経絡経穴概論第2版、はりきゆう理論 文光堂 鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ 公益財団法人東洋療法研修試験財団 はり師きゆう師国家試験出題基準 平成26年版	